

飛龍の1歩手前「躍龍」



ざっくりと説明するならば、大人からコピーしたものを崩す時代。これである。

さて、君子終日乾乾には「龍」の文字がない。変である。が問題はない。君子が龍なのである。

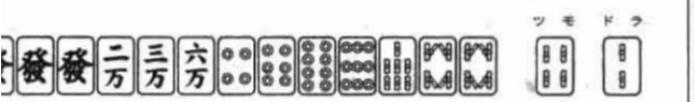
簡単にまとめめることにする。「問題が起こることより

基本から本物の技を創出

も、それに対応できない

見龍の時代。基と型を徹底してまする段階である。なる時代であった。完 想像力、創意工夫、べきなコピーである。そうして見龍の次の時代が「君子 オリジナリティー、本物としたり、そのことを恐れなさい」。つまり基本の次。それは基せる時。

時なのである。うなら取締役員進であかくして君子終日乾乾。「躍龍」だ。を身に付けた一龍は、飛龍の1歩手前であ次に進む。企業人である。



問題 東場4局。3900点のプラスで2位の西家。

トップとは1300点の差。
1 巡目に■が暗刻となり●打。
2 巡目に田が入った場面。ドラは●。

何を切る？ 実践麻雀

ここで次の応手が考えられるが、どう構えるのがいい？

- ① 四切
- ② 六切
- ③ 田切

解答は左下に

「躍る」とは飛龍のまね事である。一瞬だけ空中にいる。ただ表面的になぞるだけではいけない。本番さながらのシミュレーションなのである。

言葉を変えよう。完成直前の状態なのだ。

いつ飛龍になってもいいように、その時代がいつ満ちてもいいように、準備を怠りなくしていなくてはならないのが躍龍の時代なのである。

1年前

【column】